



広川町日吉
萩尾 ツグエ

八女茶で健康

第 26 回

平成29年度全国茶品評会玉露の部で上陽町仏尾の久間正大さんが日本一獲得！



久間正大さん

この品評会は、国の農林水産祭参加行事として、全国茶生産団体連合会が主催したもので、平成29年9月5～8日長崎県の大村市で開催されました。審査茶種は、煎茶10k、煎茶4k、深蒸し煎茶、玉露、かぶせ茶、てん茶（抹茶にする前のお茶）、蒸し製玉緑茶、釜炒り茶の8茶種部門があり、それぞれの部門の1等1席には農林水産大臣賞が授与されます。私は、審査委員の一人として審査をさせて頂きました。福岡県からは、煎茶2部門、玉露、かぶせ茶、てん茶の5部門に出品し、それぞれ多くのお茶が入賞したことにより、八女茶の名声を大いに高めることとなりました。特に玉露部門では、1等1席の日本一に200点満点で久間正大さん（38歳）が輝かれました。2位は199点で京都の宇治茶で、まさに日本一を争う高レベルの品評会でした。久間さんは、平成13年に就農し、茶作業の機械化を進め、今では、自身が経営する450aのすべての茶園を乗用型管理機で作業しています。しかし、茶の販売をしている中で、茶を作るなら最高峰の「玉露」を作り、消費者に届けたいと思い、煎茶園から「八女伝統本玉露」、「全国茶品評会」への挑戦を始めました。実際の玉露栽培管理では、40歳以下の生産者で組織する「福岡県茶業青年の会」の会員のうち玉露生産者を中心に「玉露プロジェクト」を立ち上げ、メールやラインなどSNSを駆使し、茶園の画像など情報交換を図りました。この品評会で1等4席になった星野村の山口孝臣さんもその仲間、くしくも同日に被覆を開始し、同日に摘採されたそうです。ベテラン玉露生産者の「匠の技」に挑戦する若い力に敬意と敬意を表します。 福岡県茶生産組合連合会事務局長 仁田原 寿一

平成3年5月からちぎり絵教室に通っています。最初から作品を見せて感想を聞いていたのが娘です。「べたっと貼っただけで遠近感がない」「色合いが悪い」「貼り方が雑」等、さんざん手厳しい指摘を受けました。その娘の新築祝いにと「百花」という題の二十号の大作を必死で仕上げました。辛口の娘もとても気に入ってくれ「玄関の一番目につく所に飾ったよ」と言ってくれました。これも、合う仲間の皆さんと共同、コッコンと続けたと思っています。月一回の教室を楽しみにしています。

こんにちは。筑後警察署です。

④⑩



「道路横断中の交通事故防止！」

筑後警察署からのお願いです。福岡県内では、8月18日から27日までの10日間で、「9件」の交通死亡事故が発生しています。うち4件が、「道路横断中の歩行者が犠牲」となる交通死亡事故でした。

例年、日没時間が早くなる9月以降は、午後5時～7時の間の事故が多発する傾向にあります。

歩行者の方は、●横断歩道を渡りましょう。●信号が青になっても、左右の安全を確認してから、道路を渡りましょう。●反射材などを活用して、ドライバーから目立つ工夫をしましょう。

運転者の方は、●横断歩道上に人がいれば、必ず一時停止！●十分な車間距離をとりましょう。●郊外など薄暗い夜道は、「ハイビーム走行」で、歩行者等を早く発見できるようにしましょう。

交通事故は、皆さん一人一人の心がけ次第で減らすことができます。思いやりと余裕を持った運転で、福岡県から交通事故をなくしましょう！！

詳しくは、筑後警察署のホームページをご覧ください。

矢部川源流・杣の里の四季 ⑦②

オトギリソウ(弟切草)[オトギリソウ科]

オトギリソウの名の由来は、この草を原料にした秘薬の秘密を漏らした弟を兄が切り殺したという平安時代の伝説による。全草を乾燥させたものを小連翹(しょうれんぎょう)といい生薬として用いる。花期は7～9月。

黒木町 松尾 重根



八女筑後看護専門学校の卵 ③

看護科は、准看護師の資格を取得した後、正看護師の国家資格を取得するための教育です。勉強する内容は同じでも、准看のときより求められるレベルは各段と上がります。年齢、性別、病気が同じでも、人は顔や形が違いうようにその人の価値観、人生観が違いため、一人ひとりの患者さんにあった看護が求められます。患者さんの状況を踏まえ、計画を立て、ケアを行い、言葉や表情、動作などから、行った援助を評価して、喜んでもらえるような個性のある看護を目ざします。看護計画をたて、実行に移し、評価して、悪いところは改善していくサイクルは、生産管理や品質管理に使われる手法と全く同じです。このサイクルに基づいて看護を行うことが、患者さんに対する看護の質を保証します。実習では、常にこの考え方が求められ、行ったことを記録しますが、決して楽ではありません。実習が始まった頃は、記録を書くことに不慣れで、随分時間を費やし、睡眠時間を削る学生も多いようですが、回を重ねるごとに書くことに慣れて要領をつかんでいきます。この実習経験を通して、一人の患者さんの看護を振りかえり、事例報告という発表会を行います。これまでの自分の体験をまとめ、同じような病気や状況に置かれている患者さんにどう看護したらよいのかの具体的方法を残しておきます。また自分の行った看護を文章にし、自己の考えや、言いたいことを相手に伝える難しさも同時に経験します。

学生は、夏季休業中、毎日のように登校し、担当教員の指導を受けながら事例報告としてまとめますが、携帯電話やパソコンのメールなどで、短い文章で絵文字、顔文字、スタンプを使い、やりとりをする若い人が多く、長い文章を書くことに慣れていないようです。文章力は短期間で上達するものではありませんが、最初上手く書けなくても、最後はしっかりと内容にまとめ堂々と発表します。発表会を終えると、さわやかな秋を迎え、いよいよ本格的に看護の道を歩んでいきます。看護師は、仕事についても、常に記録を書かなければなりません。実習記録を書いたり、事例報告としてまとめて発表したりした経験が、これからの看護業務にきっと活かされると思っています。 副学校長 高治 智美



クラッシー文芸

■立花町立花俳句会

裸とは気ままなものよ独りの夜 吉泉守峰
夏座敷方言歌留多に賑はへり 西島志乃芙
主なき家を丸呑み葛かつら 中村テルヨ
広陵高真夏の聖地華と散る 平田清香
鶏頭花吾も伸びたき背丈かな 末継ミヨ子
新じゃがの小粒ばかりを煮付けたら 深町和子

■筑後俳句会

ねぶたの夜着飾り跳ねる跳人かな 武田行夫
包丁の触るるや西瓜輝走る 原 宣子
案ずること多き日々なり雲の峰 中尾カヲル
江崎かをり 貝田チヅミ
夕焼や明日は晴ると雲の色 城戸真子
八朔や般若心経唱和して 菰原寿子
新盆や遺香かすかに妣の部屋 下川チトエ
炎帝の田に大亀の動かさる 白谷きよみ
紫陽花の終の大毬めでにけり 平 昌恵
軽トラの担ぐ神輿や過疎の村 辻 八重子
品書きの余白も清し夏料理

■立花短歌会

夏の夜に花火の花が咲き乱れ暑さ忘れる一時の快 橋本泰州
ばあちゃんの都忘れの花が咲くホームの暮ら 松尾ミサキ
しは空しくないか 井上 精
モールの信号脳裏に残れども昨夜食べたるものを忘れて 田中たつじ
被爆者の祈り届かずこの国は国連決議に賛成とせず 中島睦美
絶対忘れてならぬ八月は原爆の日と終戦の日 鶴 隆治郎
尾瀬ヶ原地塘に映る燧ヶ岳祈りをせんと朝日待つなり 櫻木敦子
読みさしの本の続きが気になりて夜更かしおれば暁となる 鶴 邦子
泰平を祈る四郎の情熱か天草灘は夕日に染まる 樋口愛子
孫のため戦いのない世であればと祈り祈りて先祖を迎える 野中裕政
祈りても祈りても限り無きものぞ七十二年の被爆地の夏